

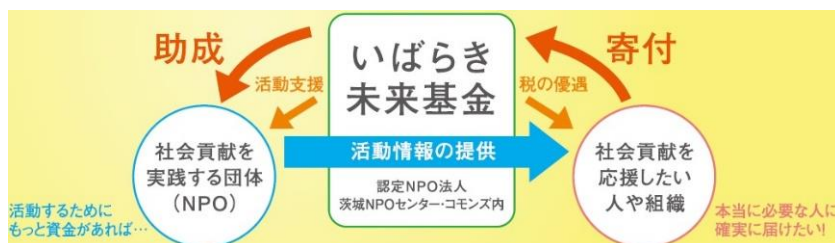
と一緒に、茨城の未来を育てませんか ～あなたのお気持ちを届けます～

ご寄付のお願い



いばらき未来基金

いばらき未来基金は、茨城の未来をつくり、生活を支え、地域のつながりを育む様々な市民活動と、応援したい市民や企業などをつなぐ、茨城のための市民コミュニティ基金。ご寄付をいただき、茨城の未来を豊かにする地域の活動に届けることで、あなたの社会貢献を応援します。



応援したいテーマを選んで、

テーマ1:共に生きる未来 ～誰もが安心して暮らせる地域づくり～

災害や不況で家や仕事をなくしたり、家族が離れ離れになったり、風評被害に遭いながらも、前を向いて動こうとする人によりそい、応援する活動があります。日本語が話せない、子どもの世話が大変など、事情があって仕事の機会が限られる人のための支援活動があります。ひきこもりや無縁社会といった現象は、誰もが直面するかもしれない問題です。行政の支援が届かない新たな福祉問題に取り組む活動や、孤立しがちな人のコミュニティづくりなど、共に生きる社会を目指す活動を支援します。

<活動例>人々の自立やコミュニティをつくる活動

- ・災害で苦労した人と共に生きる活動
- ・就労しにくい人の仕事や職場づくり
- ・悩んでいる人や家族を支える活動
- ・ひとり親世帯や単身世帯を応援する活動
- ・情報・移動・制度・心のバリアを取り除く活動
- ・社会課題への関心・理解を深める活動
- ・課題を抱えた方の自助グループづくり
- ・排除されがちな人のセーフティ・ネットづくり



<助成事例>認知症とその介護の正しい理解を地域に広める

NPO 法人 認知症介護家族の会うさぎによる「子ども認知症介護教室」
稲敷市は現在、高齢化率が30%を超えています。認知症を患いながら、一人暮らしをしている高齢者も年々増加しています。認知症の症状である徘徊など、家族だけの問題ではなく、地域社会全体の問題です。徘徊による行方不明や死亡事故などが起こることのないように、一人でも多くの地域住民の見守りや支援が必要です。

そのため、子ども認知症介護教室を実施し、地域の次世代を担う小学生を対象に、認知症とその介護の理解を広めています。子どもたちを通じ、忙しい子育て世代にも働きかけています。

テーマ2:未来世代と持続可能性 ～未来の担い手やライフスタイルづくり～

経済のグローバル化で、学校では外国とつながる子どもが増え、高校進学が課題になっています。格差が広がり、塾に行けない子どもたちも増えています。次世代を担う子どもたちが進学や将来の夢をあきらめなくてすむように、学びを支援することは、未来への投資です。また、自然エネルギーの普及や乗り物を共有する仕組みづくりなど、持続可能な生活環境をつくるための活動も地域の未来をつくることにつながります。地域の未来を明るくする人や技術が育つよう、夢や希望を本物の可能性に変える活動を支援します。

<活動例>いばらきの未来を創る活動

- ・子どもの貧困や、学習支援に関する活動
- ・外国とつながる子どもへの支援
- ・若者の進路を拓くキャリア教育
- ・ESD（参加型の学習とまちづくり）のプログラム
- ・食の安全や農業を支える活動
- ・自然エネルギーの普及
- ・自然や環境を次世代に残す活動
- ・地域での資源循環や持続可能な暮らしを広げる活動



<助成事例>学習支援で子どもの居場所をつくり、貧困の連鎖を止める

学びと交流の秘密基地による「双葉台における学習支援プロジェクト」
日本の子どもの貧困率は13.9%（7人に一人）と、先進諸国で最悪レベルです。貧困の世帯間連鎖を食い止めるためには、学習支援が最も有効です。経済的な理由から十分な教育を受けられず、進学をあきらめてしまうことは、将来的に貧困の世帯間連鎖を生んでしまいます。

このプロジェクトは、茨城大学の学生が中心となり、水戸市双葉台地区で、地域の支援を受けながら無料の学習支援を行っています。子どもたちにより近い立場の若者が関わることで、地域の居場所となっています。また県内の先進事例として、他地域での学習支援の設立・運営の助言や情報提供などを行っています。

ご寄付いただけます

テーマ3：地域資源の再活用 ～知恵と交流で未来をつくる～

社会の変化によって、地域にある大事な場所、風景、建物、人のつながり、文化が失われつつあります。限界集落に若者が入って村を残す活動、古い蔵や民家、廃校や公共施設などを改装して次世代に残す活動、商店街や団地の中に人が集う場や小さな福祉拠点をつくる活動など、地域の資源と課題を組み合わせる新たな価値や公共空間を生み出す活動があります。立場や地域を超えて人が交流したり、知恵を出しあって、未来につながる課題解決に取り組むプロジェクトや、地域円卓会議の開催を支援します。

<活動例> 地域のつながりを育む活動

- ・民家や施設を開いた居場所づくり
- ・団地の高齢化対策
- ・地域資源を活かしたタウン・ミュージアム
- ・地域を紹介する情報の発信
- ・地域や世代を超えた交流企画
- ・都市と農村の暮らしをつなげる活動
- ・企業とNPOなど異業種による協働実験
- ・つなぐ人材の育成に関する活動



<助成事例> 水戸のまちづくりの担い手を育て、増やす

みと市民プロジェクトによる「市民まちづくりトレーニング@水戸」

県庁所在地の水戸も、少子高齢化、人口減少、地域のつながりが希薄になるなど様々な課題を抱えています。まちなかでは経済活動が衰退し、空き店舗や空き家が増加するなど、活気が失われています。この状況を逆手に取り、遊休不動産を有効活用することで、人々の自己実現の場を作ったり、課題の解決を図ったり、経済を活性化することが可能です。

このプロジェクトでは、地域でやりたいこと、解決したい課題などがある市民に、具体的な活動テーマの設定、仲間や支援者との出会い方、機会と場のつくり方、つなげ方などを学び、実践する機会を提供します。

ジュントス JUNTOS 募金：水害で被災した常総の復興と、被災経験を次につなげ

平成27年9月関東・東北豪雨で被災した茨城県常総市は、経済的な理由によって水害後に修復ができない空き家、空き店舗の増大と、居住環境の回復が遅れていることによる人口の流出が続いています。特に、働き盛りの若者が街を出ていったことで、地域の活気がなくなっています。また、住宅再建状況に差が生まれ、住民間の心の溝が広がっています。さらに、地域の店舗の閉鎖などで住民の交流する機会が閉ざされ、高齢の方を中心にひきこもりが増大しています。「地方創生」が叫ばれていますが、その課題が水害によって10年進んでしまった印象です。

<活動例> 地域の居場所や住まいをつくり、被災経験を次につなげる活動

- ・被災した空き家を改修し、地域の居場所に再生する
- ・被災経験などを伝える講演活動やワークショップ
- ・避難マップや地区防災計画の策定

その他のご寄付の方法

いばらき未来基金 全体へのご寄付	特にテーマを選ばず、いばらき未来基金の活動全体についてご寄付いただくこともできます。
遺贈寄付	人生最後の社会貢献としての遺贈、また相続財産をご寄付いただけます。まずはご相談ください。
冠基金の設置	50万円以上など、ある程度まとまった金額をご寄付いただける場合、「冠基金」としていばらき未来基金内に新たに基金を設置することができます。団体名やご希望のお名前を冠した基金にすることもできます。
寄付つき商品の 共同開発・販売	御社の商品をチャリティ商品化できます。寄付つきとする商品の選択やその価格、寄付相当額など、ご希望に併せてご提案できます。

あなたに合ったご寄付をご提案します

いばらき未来基金の特徴

☑ご寄付の成果を生み出し、可視化させます

いばらき未来基金は、あなたのご寄付をただ仲介し、地域の団体に助成するだけではありません。いばらき未来基金の事務局は、茨城県域の民間非営利の中間支援組織である、茨城 NPO センター・コモンズが担当しています。800 を超える県内の NPO 法人との関係性があり、日常から市民団体の設立・運営支援に携わっている団体だからこそできる、地域の団体への

伴走型支援があります。あなたからいただくご寄付を原資とした助成活動を行うだけでなく、情報発信やネットワークづくりの支援など組織の基盤強化支援を通じて、助成金のインパクトを最大限高めめます。さらに成果を可視化し、情報発信することで、あなたのご寄付が本当に地域に活かされるよう努力します。

☑寄付者を優遇する税制措置が受けられます

いばらき未来基金は、認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ内に設置された、区分経理している基金です。認定 NPO 法人へのご寄付となりますので、個人の寄付者の場合、年度末に確定申告をすると、寄付額の最大 40%の所得税が

還付されたり、所得税が一部控除されたり、相続税が非課税になるなど、税制面での優遇を受けられます。また、法人としてのご寄付の場合、損金参入枠が倍以上に拡大します。詳しくはこちらをく www.npocommons.org/activity/tax.html >

ご寄付の方法

ゆうちょ銀行	口座記号番号：00110-3-263714 名称：NPO センター・コモンズいばらき未来基金
銀行振込	常陽銀行 本店営業部 普通 3637778 認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ いばらき未来基金 ※ 匿名寄付をご希望にならない場合、必ず事務局にご氏名、ご住所、ご連絡先などをご連絡ください。
インターネットからの寄付	www.ibaraki-mirai.org ※ クレジット・カードやコンビニを活用して、24 時間いつでもどこでもお振込みいただけます。
募金箱	イベント開催に合わせて、また常設の募金箱の設置にご協力ください。募金箱やポスター、チラシなど、事務局からご提供します。

ご支援、ありがとうございます。

目的	市民が地域課題解決の主体となること、また多様な組織の連携による地域課題の解決を推進し、いばらきの未来づくりにつながる活動を応援すること
沿革	平成 24 年度茨城県「新しい公共の場づくりのための提案型モデル事業」として採択され、設立。
設立年月	平成 24 年 9 月
運営体制	以下の組織に所属する運営委員が連携して運営しています。 一般社団法人 茨城県経営者協会 公益社団法人 日本青年会議所 茨城ブロック協議会 関彰商事 株式会社 株式会社 常陽銀行 株式会社 茨城新聞社 日本労働組合総連合会 茨城県連合会（連合茨城） JA 茨城県中央会 生活協同組合 パルシステム茨城 茨城大学 認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ
代表	いばらき未来基金運営委員会 委員長 帯刀 治（茨城大学 名誉教授）
累計受取寄付金合計	15,770,001 円（平成 29 年 9 月末現在）

いばらき未来基金事務局

（運営：認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ）

担当：大野

〒310-0022

茨城県水戸市梅香二丁目 1 番 39 号

茨城県労働福祉会館 2 階

☎：029-300-4321

FAX：029-300-4320

eメール：office@ibaraki-mirai.org

ウェブサイト：www.ibaraki-mirai.org

www.facebook.com/lbarakimiraiikikin



いばらき
未来基金